

研究計画概要書

研究課題名		緩和ケア病棟の看護師による予期悲嘆に対する支援の認識
研究組織	研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻臨床看護学講座 教授 安藤詳子
	研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 4年 後藤瑞貴
	共同研究者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学院医学系研究科看護学専攻修士課程 2年 新藤さえ
	研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 安藤研究室 住所：名古屋市東区大幸南一丁目1番20号 連絡先：052-719-1553
研究の意義・目的		<p>家族との死別は多くの人にとって重大な喪失体験である。悲嘆とは、喪失により起こる身体面・精神面・社会面等の複雑な反応と行動を含む正常なプロセスである。予期悲嘆は、Lindenmann(1944)により「死別という不可逆で最終的な別れの前に、潜在的な死への悲嘆反応が現れること」と定義されている。患者と関わる医療者の家族の予期悲嘆に対する支援は、家族の看取り、死別後の悲嘆に影響を及ぼすと考える。</p> <p>近年において、家族の予期悲嘆に関する先行研究は見られたが、予期悲嘆への支援に関する研究は少ない。そこで、家族の予期悲嘆への支援や配慮を行う機会が多い緩和ケア病棟の看護師について、家族の予期悲嘆への支援に対する認識を分析し、支援の在り方について考察する。</p> <p>家族の予期悲嘆への支援について、緩和ケア病棟勤務の看護師の考えを、「大切にしていること」、「困難に感じること」、「考えや意見」の3つの項目から分析して明らかにしていくことを目的とする。</p> <p><参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林裕美：ターミナルケアにおける予期悲嘆(Anticipatory grief)の定義に関する文献的考察，日本在宅ケア学会誌(1346-9649)，2008.9：12巻1号：page62-68 ・小林裕美，森山美知子：在宅で親や配偶者の看取りを行う介護者の情緒体験と予期悲嘆，日本看護科学会誌(0287-5330)，2010.12：30巻4号：page6-16 ・小野若菜子：家族介護者に対して訪問看護師が行うグリーフケアとアウトカムの構成概念の検討，日本看護科学会誌，2011：31巻1号：page25-35 ・小林裕美：在宅で終末期を迎える人を介護する家族の予期悲嘆尺度の実用可能性の検討，日本在宅ケア学会誌(1346-9649)，2013.9：17巻1号：page68-76 ・廣瀬春次：在宅の認知症患者を介護する家族の予期悲嘆，日本看護研究学会雑誌(0285-9262)，2006.4：29巻1号：page57-65

	<ul style="list-style-type: none"> ・若林一美：死を見すえた時期の症状緩和と看取り 予期悲嘆と死別後の悲嘆について，がん患者と対症療法 (0918-8509), 2008.4 : 19 巻 1 号 : page32-35 ・小林加奈：予期悲嘆の概念に関する文献的考察, 平成 28 年度看護研究演習卒業論文抄録集, 2017.3.31 : page39-40
主な選択基準	東海地域にある 18 緩和ケア病棟に所属する看護師 130 名が対象である。
研究方法 (多施設共同研究の場合は、本学の役割・目標症例数も記載)	<p>【使用するデータ】</p> <p>質問紙調査「緩和ケア病棟における家族の予期悲嘆に対する支援に関する調査」における、自由記述回答の以下 3 項目の回答データ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 家族の予期悲嘆への支援について、あなたが最も大切にしていることを記載してください。 2, 家族の予期悲嘆への支援について、あなたが困難に感じていることを記載してください。 3, 家族の予期悲嘆への支援について、あなたの考えやご意見等がありましたら自由に記載してください。 <p>【分析方法】</p> <p>緩和ケア病棟で勤務する看護師を対象に行われた自記式質問紙調査における、3 項目の自由記述回答について、Berelson の内容分析を行う。</p>
研究期間	実施承認日から平成 30 年 3 月 31 日まで
インフォームド・コンセントの方法 (説明を行う者等)	本学大学院博士前期課程の新藤氏の調査した既存のデータを使用することにより、直接、対象者にインフォームド・コンセントを行うことは不可能であるために、調査データを使用する旨の研究計画概要書を「生命倫理審査委員会 保健学臨床・疫学研究審査委員会」の HP に掲載する。
個人情報の管理体制 (個人情報管理者、連結表の管理体制等)	使用されるデータは他の研究にて収集された既存のデータであり、既に匿名化されていることから個人が特定されることは無く、個人情報に関する危険や不利益は生じない。
研究で収集した試料・同意書の保管場所、研究終了後の試料の取扱い	情報は厳重に管理し、研究目的以外には使用しない。
効果安全性評価委員会 (委員の職名・氏名・審査間隔)	
被験者に重篤な有害事象が生じた場合の対処方法	